HIDA CITY
飛 驒 市

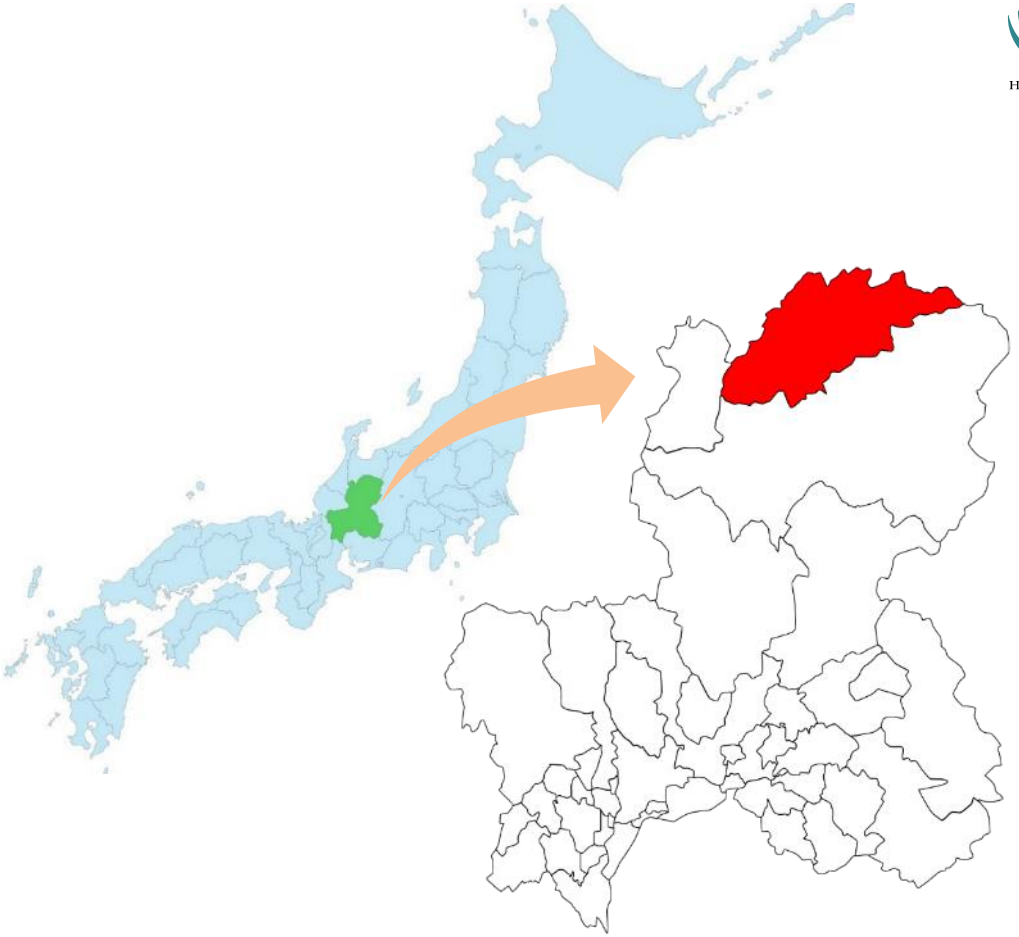
飛騨市の森を活かした地方創生

～　小径広葉樹の新たな価値の創造による「広葉樹のまちづくり」の実現　～

令和3年3月11日

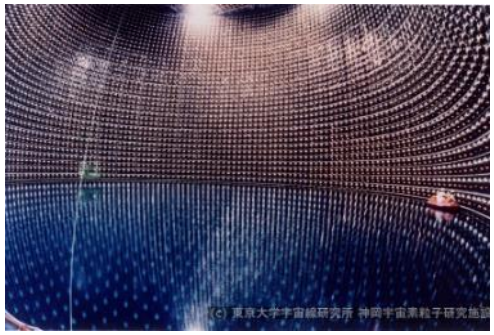
岐阜県飛騨市　農林部林業振興課　竹田慎二

① 飛騨市の広葉樹資源



飛騨市　森林率は93.5%

- 岐阜県の最北端に位置（標高200－2840m）
- 広大な面積（792.53km²）
- 広大な森林（740.97km²）



ノーベル物理学賞２名を輩出した研究施設「スーパーカミオカンデ」

ユネスコ無形文化遺産に登録された「古川祭」

イメージとして飛騨市が登場する映画の大ヒット

岐阜県

- 県北部には3000m級の山脈（標高0－3190m）
- 県南部には肥沃な平野
- 広大な森林（8629.24km²）『木の国・山の国ぎふ』

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

飛騨市の森林の特徴

岐阜県内で広葉樹の割合の高い地域（国有林を除く）

順位	自治体名	広葉樹割合（%）
1	白川村	87.9
2	**飛騨市**	**68.0**
3	揖斐郡	66.5
4	本巣市	55.2
5	養老郡	53.8
6	高山市	52.8
7	大垣市	52.0
8	海津市	46.0
9	瑞浪市	40.6
１０	郡上市	39.5
参考	全国	47

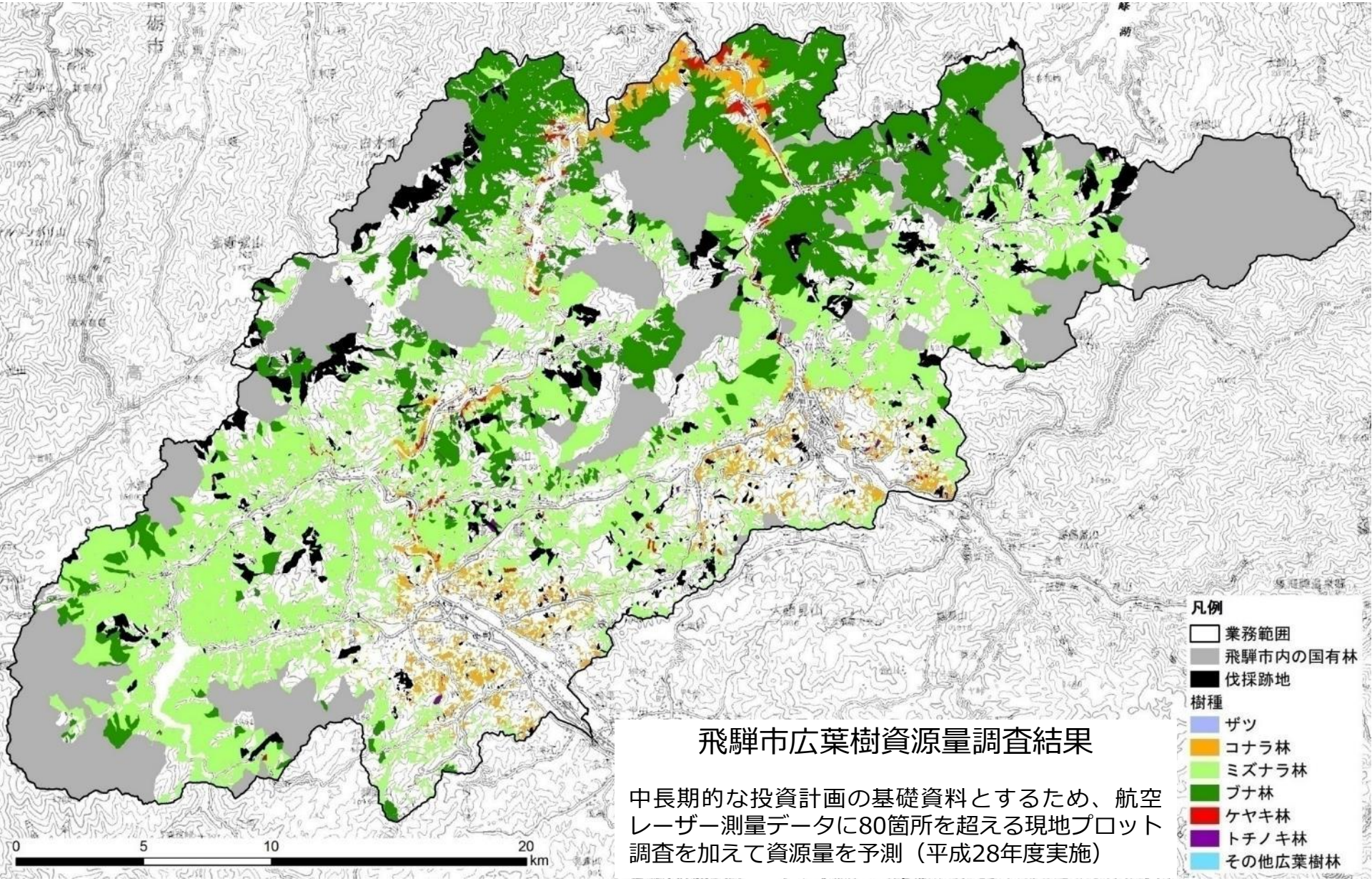
資料：岐阜県森林・林業統計書

飛騨市は、93.5%の森林のうち、68%を広葉樹天然林が占めるという特徴を持つ。

ブナに代表される豊富な森林資源と「飛騨の匠」と呼ばれる高い木工加工技術により、高山市を中心に日本の家具産地の一つを形成（飛騨の家具©）。

飛騨市河合町天生にあるブナ林

飛騨市の豊富な広葉樹資源



飛騨市広葉樹資源量調査結果

中長期的な投資計画の基礎資料とするため、航空レーザー測量データに80箇所を超える現地プロット調査を加えて資源量を予測（平成28年度実施）

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

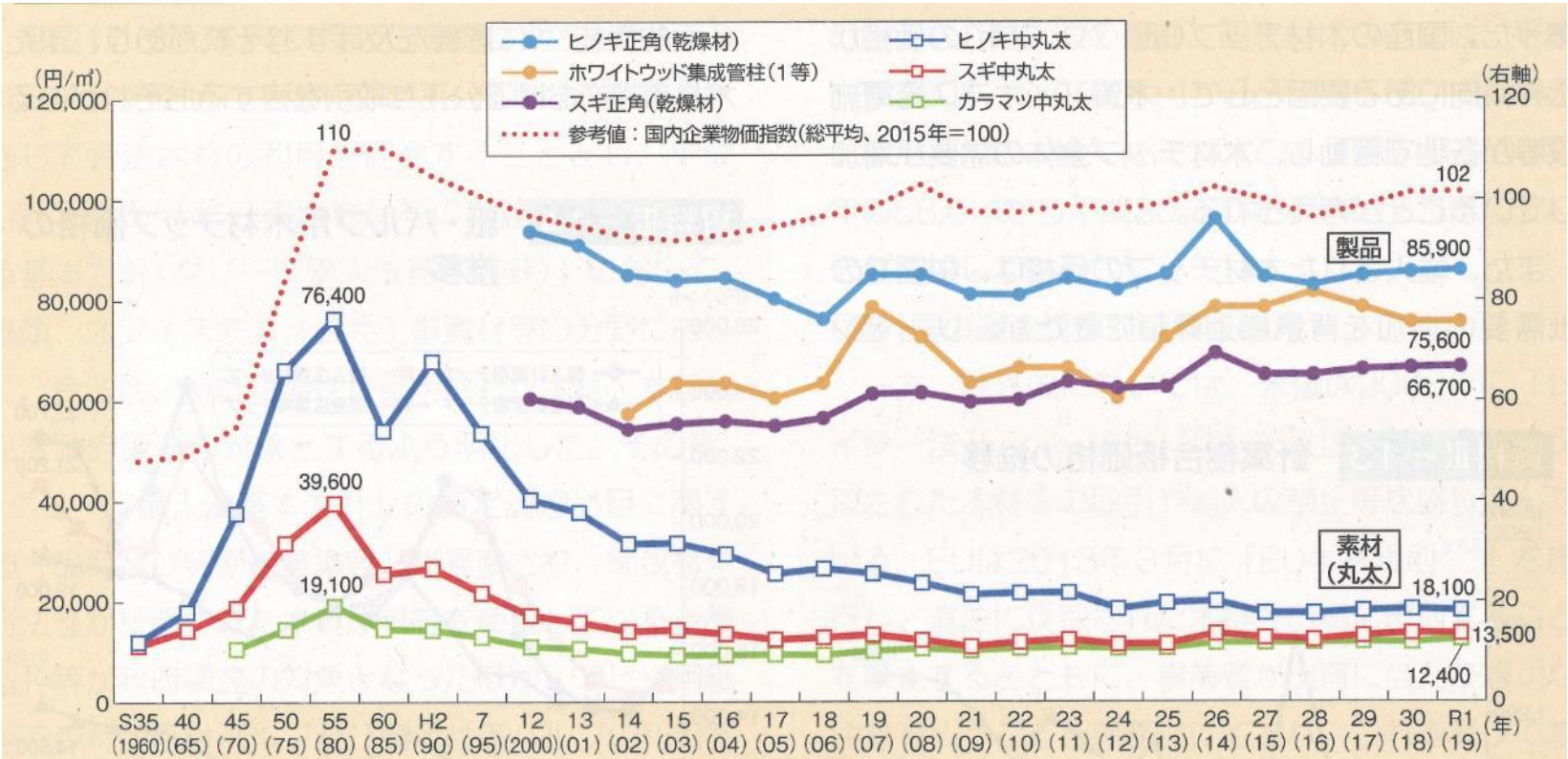
広葉樹活用の大きな課題

飛騨市がH28に実施した市内民有林を対象にした資源量調査によれば、市内にはミズナラやブナを中心とした豊富な広葉樹資源がある一方、平均胸高直径が26ｃｍ程度であることも判明。一般的に26cm程度と言えば、通直なものでも良くて枕木、多くはパルプ・チップや薪にしかならないという評価となる。

⇒　**家具等に使うことができない**　という評価

② 広葉樹を取り巻く近年の状況

国産針葉樹の価格の推移



注1：スギ中丸太(径14～22cm、長さ3.65～4.0m)、ヒノキ中丸太(径14～22cm、長さ3.65～4.0m)、カラマツ中丸太(径14～28cm、長さ3.65～4.0m)のそれぞれ1㎥当たりの価格。

2：「スギ正角(乾燥材)」(厚さ・幅10.5cm、長さ3.0m)、「ヒノキ正角(乾燥材)」(厚さ・幅10.5cm、長さ3.0m)、「ホワイトウッド集成管柱(1等)」(厚さ・幅10.5cm、長さ3.0m)はそれぞれ1㎥当たりの価格。「ホワイトウッド集成管柱(1等)」は、1本を0.033075㎥に換算して算出した。

3：平成25(2013)年の調査対象等の見直しにより、平成25(2013)年以降の「スギ正角(乾燥材)」、「スギ中丸太」のデータは、平成24(2012)年までのデータと必ずしも連続していない。

4：平成30(2018)年の調査対象等の見直しにより、平成30(2018)年以降のデータは、平成29(2017)年までのデータと連続していない。

資料：農林水産省「木材需給報告書」、日本銀行「企業物価指数(日本銀行時系列統計データ検索サイト)」

外国産広葉樹（輸入材）の近況

研究情報

国産広葉樹に
再び注目が集まっています！

国立研究開発法人　森林研究・整備機構　森林総合研究所
林業経営・政策研究領域　青井秀樹

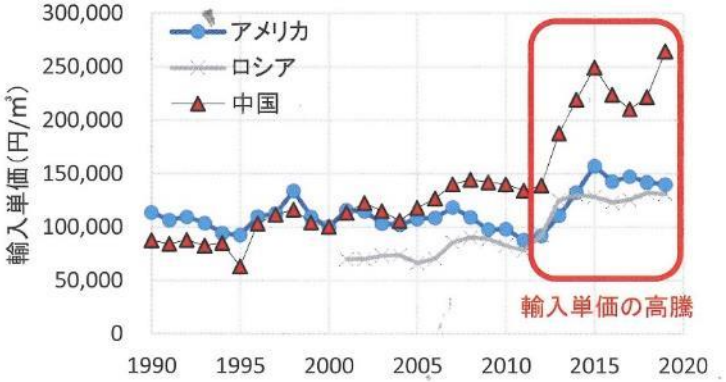


図1．「オーク」の「製材品」の輸入単価の推移
出典：財務省「貿易統計」

国産広葉樹に「再び」注目が集まる背景とは

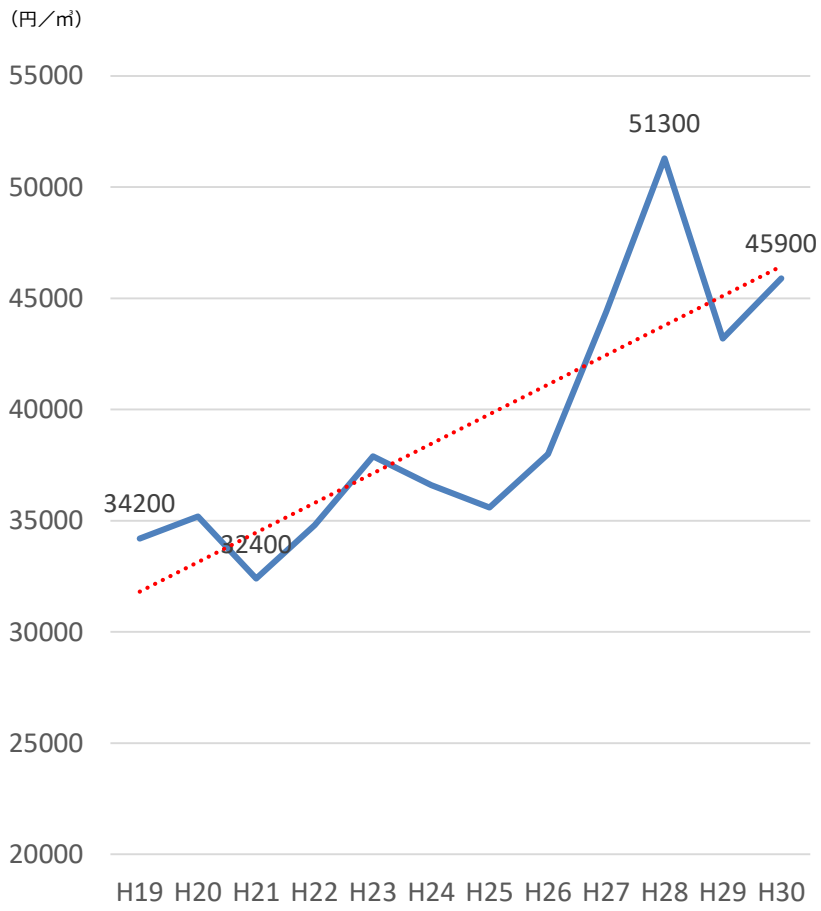
近年、わが国の広葉樹に再び注目が集まっています。「再び」と記しましたが、これ以前に注目を集めていたのは一九八〇年代以前に遡ります。当時は、家具用や内装材用等として、北海道産のミズナラや東北産のブナなどが大量に供給され、大量に使用されておりました。その後は、安価な海外産広葉樹に取って代わられ、現在では北米産、欧州産に席巻されています。こうした状況下で「再び」わが国で産する広葉樹に注目が集まっているのです。

この背景には、ワシントン条約による自国資源保護や、クリーンウッド法施行による違法リスクのある木材の排除など、様々な要因が考えられますが、最も影響が大きかったのは二〇一二年後半から始まった円安、と推測されます。現状と比較すると二〇一二年当時は1米ドルが七八円台という極端な円高にあったのですが、その後はじわじわと円安に転じて、二〇一五年には一二三円台へと至りました。これは実に約五割も円安に転じたことになります。仮に二〇一五年に、二〇一二年当時と同額で広葉樹を買い付けたとしても、円安で実質的に約五割も値上がりしたことになります。その上、現地価格の高騰も加わることになります。**図1**に「オーク（注：日本のナラ類に近い）」の「製材品」の輸入単価の推移を示します。二〇一二年と比較すると、二〇一五年では約五割も値上がりしていることが分かります。これは一般論ですが、さすがに原材料の値段が五割も値上がりすると、実需者はより割安な産地を探そうとするのではないでしょうか。主にそうした観点から、国産の広葉樹に「再び」注目が集まった、という訳です。

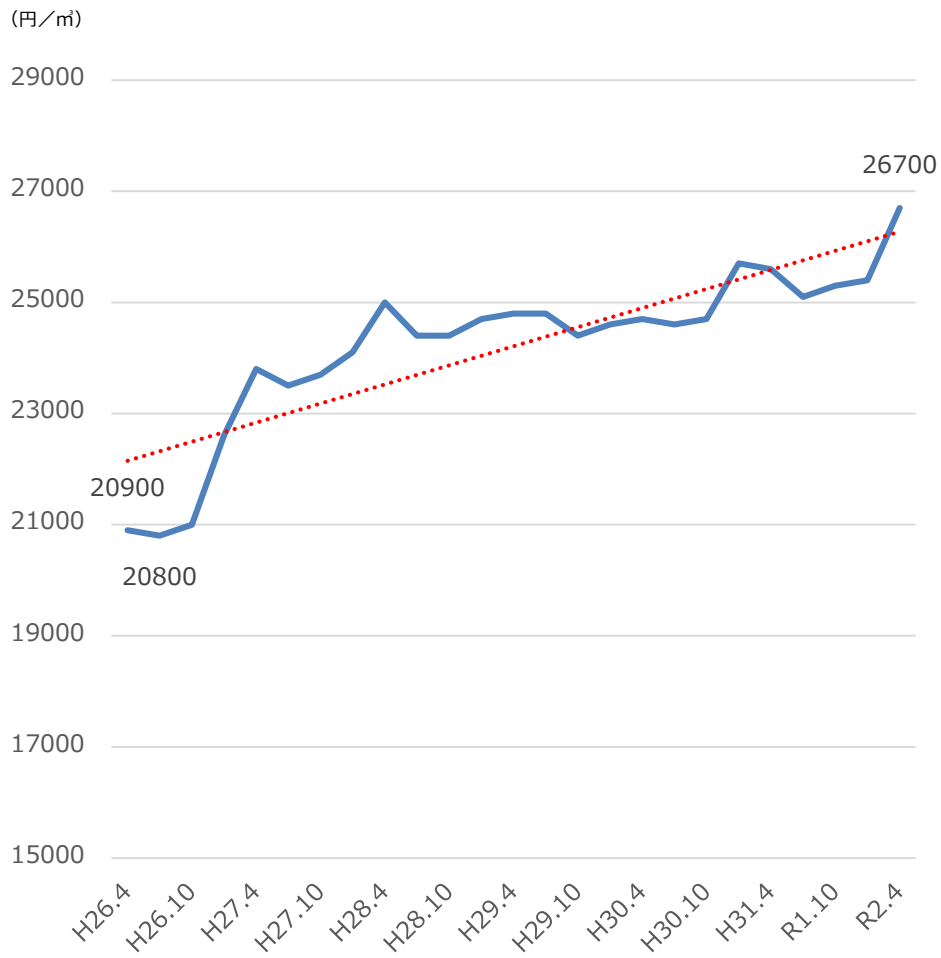
資料：日本林業協会「森林と林業」2020.11月号

北海道におけるナラの価格の推移

２等品：径40～48cm　長2.4m上



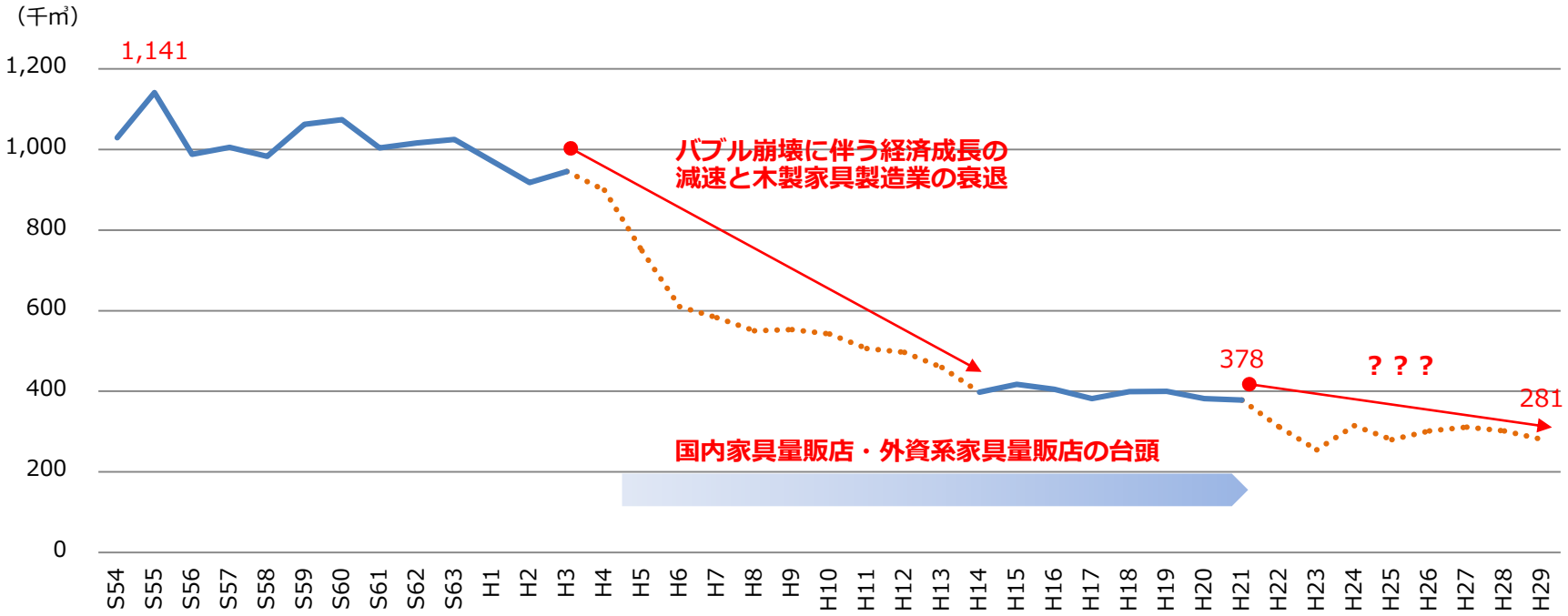
３等品：径30～38cm　長2.4m上



資料：北海道水産林務部林務局総務課「林業統計」

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

岩手県における広葉樹素材生産量の推移



資料：農林水産省「木材統計」

（平成21年度～の生産量減少の要因として考えられる要素※）

① これまでの伐採により、**大径材の資源量そのものが減少**している。

② 大型合板工場や木質バイオマス発電所の乱立により、針葉樹の需要が大幅に増加し、ただでさえ減少している林業技術者が針葉樹施業に流れることで広葉樹伐採を行う事業体や林業技術者が減少している。

※北海道及び岩手県での関係者への聞き取りによる

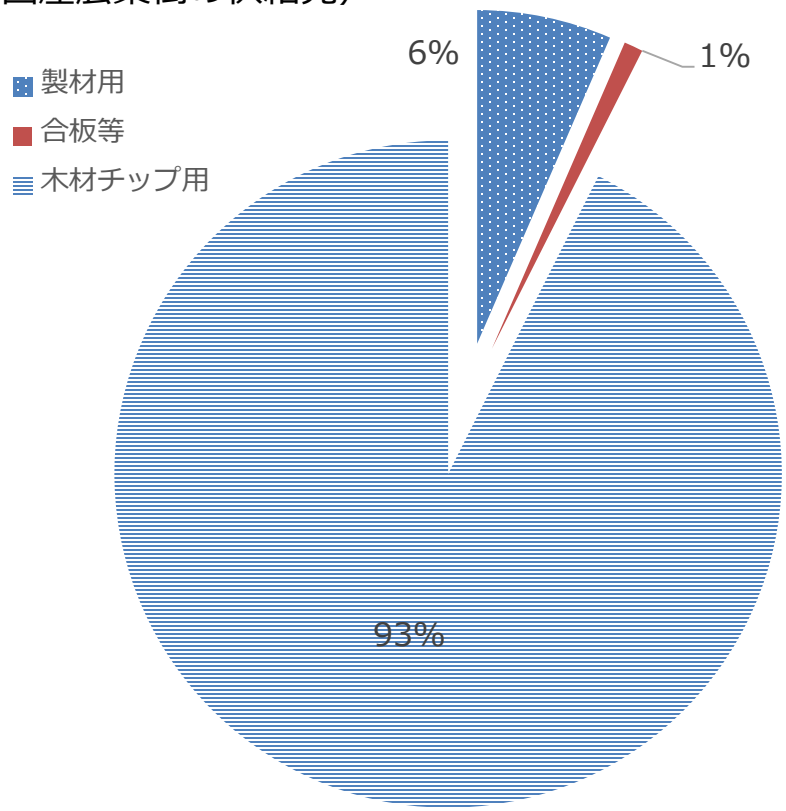
© 2021 Gifu Prefecture Hida City

国産広葉樹による新たな産業創出に向けて

針葉樹と比較して、広葉樹は輸入材・国産材の双方においてその価格が高騰しており、国産材の素材生産量も減少傾向にあることから、今後は国内において広葉樹を持続可能なかたちで安定的に活用することができる仕組みの構築が必要。

現在の国産広葉樹の需要と生産の関係

（国産広葉樹の供給先）



資料：平成30年木材需給報告書

国産材のほとんどは、家具用材などと比較して安価で取引されるチップ用材として流通している。

国産広葉樹は海外と比較して大径材が少ないことに加え、そもそも広葉樹の樹形は複雑で用材歩留が低く、家具用材となる率が極めて低いため、チップとしての需要が国内生産を牽引している（皆伐により収穫した木材の中から良材のみが家具用材となる＝チップとしての需要が減少すると広葉樹の生産量が減少する）。

現状、国産材の需要拡大に対応するためには、皆伐面積を増やす手法に頼らざるを得ず、資源量や環境的な側面から持続可能とは言えない。

― 持続可能（サスティナブル）の定義 ―

資源量・環境負荷的な持続性	経済的な持続性

小径材の高付加価値化
（チップや薪より高い価格で販売すること）
が必要不可欠

© 2020 Gifu Prefecture Hida City

③ 広葉樹の森を活かした飛騨市の地方創生（まちづくり）

－ 第1ステップ －
H27～R元

広葉樹を地方創生のパートナーにするために

飛騨市

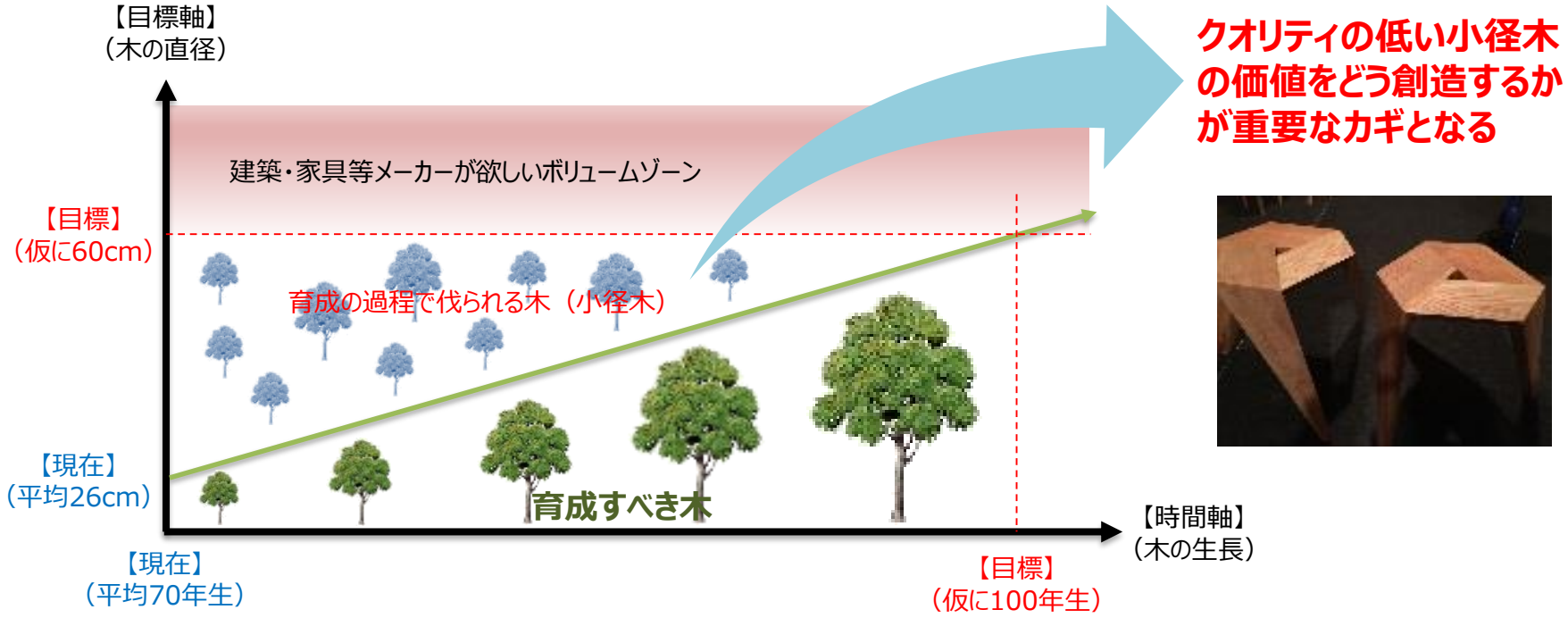
取り組みの2つの柱

価値ある広葉樹を育てる

いまある針葉樹人工林を最大限に活用しながら利益を確保する一方で、広葉樹が用材として利用が可能となる目標到達期に向け、多様で価値ある広葉樹を育てる。

広葉樹小径木の新しい価値を創造する

いまある「使えない」と言われる広葉樹小径木に、これまでにないアイデアやネットワーク等を活用することで新しい価値を吹き込み、チップや薪などより高い価格で販売する。



価値ある広葉樹を育てる（スイス・フォレスター研修）

スイスからフォレスターを招聘し、育成木施業（活力があり質の高い優良木に焦点を当て、その木の生長を阻害する周りの木を集中的に伐採する施業方法で将来木施業とも言う）を学ぶ研修会を令和元年度まで８年連続で開催（※R2はコロナ禍により中止）。

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

価値ある広葉樹を育てる（広葉樹施業を実践する場の提供）

飛騨市

研修で習得した様々な知識・技術を市有林において実践

【平成28年度】飛騨市宮川町洞地内　6.0ha
【平成29年度】飛騨市神岡町伊西地内　2.0ha
【平成30年度】飛騨市古川町畦畑地内　2.0ha
【令和元年度】　飛騨市宮川町菅沼地内　2.0ha

【令和２年度】　収穫と更新を目的とした試験伐採　2.0ha　※私有林

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

小径広葉樹の新たな価値の創造

株式会社飛騨の森でクマは踊る（通称「ヒダクマ」）の設立

これまで難しかった小径広葉樹の活用に必要な新しいアイデアやノウハウ、ネットワークを有する民間企業２社とともに法人を設立。
国内外を問わず、様々なクリエイターとのコラボレーションすることにより、これまでにない価値の高い木製品を企画・製作・販売することが可能に。

ヒダクマを構成する企業等

tobimushi
森は地域の宝もの
出資比率：13.5%
（設立時：25%）

都市部へのチャネルを活用した新たな商品（上記）の販売と林業・木材流通の新たな仕組みづくりを行う。

loftwork
出資比率：54.0%
（設立時：25%）

国内外のクリエイターネットワークを活用し、小径木による新たな商品を世界のものづくり人材や異業種との交流により生み出す （デザインする）。

飛 驒 市
HIDA CITY
出資比率：32.5%
（設立時：50%）

豊かな森林資源（広葉樹）と高い木工加工技術により持続可能な地域づくりを目指す。市有林約20haも現物出資。

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

アイデアの共有・活用を可能にする拠点「FabCafeHida」

飛騨市

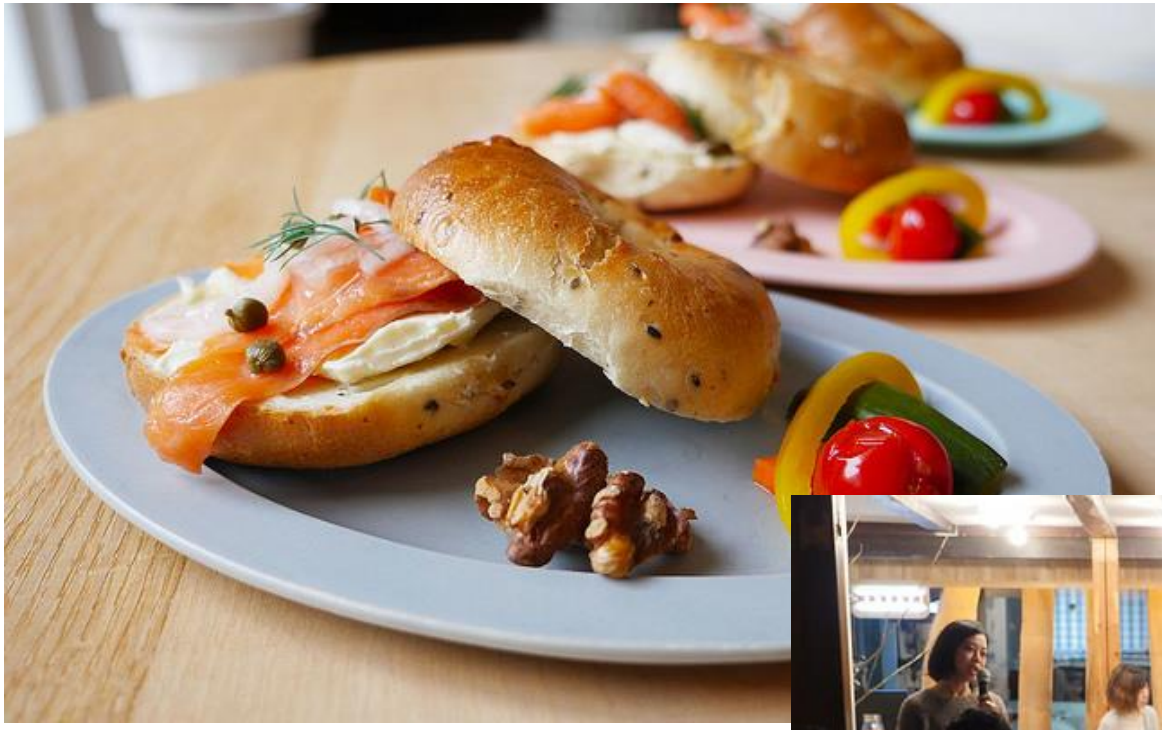
FabCafeHidaは、ヒダクマが経営するカフェ、木製品の企画・開発、プロトタイピング、滞在（宿泊）、イベント開催等の機能を有したクリエイティブな空間。

（世界とつながるFabCafeネットワーク）

①FabCafe Tokyo（日本）②FabCafe Nagoya（日本）③FabCafe Kyoto（日本）④**FabCafe Hida**（日本）
⑤FabCafe Taipei（台湾）⑥FabCafe Toulouse（フランス）⑦FabCafe HomgKong（中国）
⑧FabCafe Barcelona（スペイン）⑨FabCafe Strasbourg（フランス）⑩FabCafe Monterrey（メキシコ）
⑪FabCafe KualaLumpur（マレーシア）⑫FabCafe Bangkok（タイ）

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

FabCafeHidaが有する機能



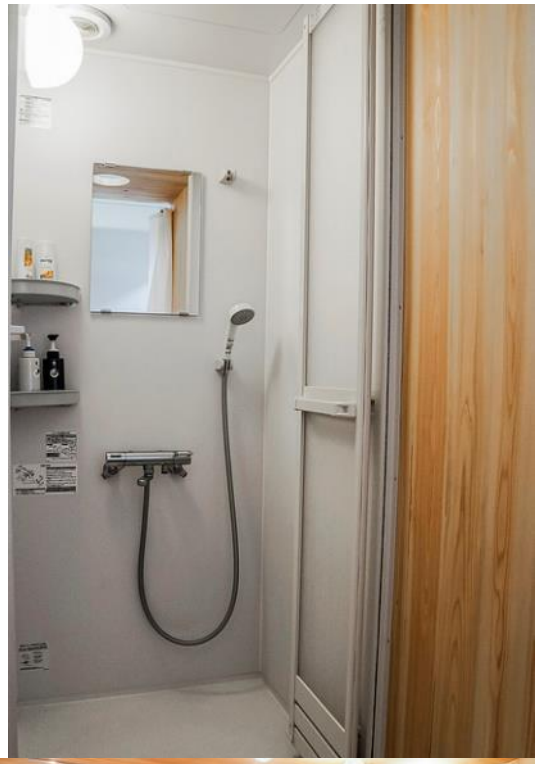
カフェ

イベント

FabCafeHidaが有する機能

ワークショップ

FabCafeHidaが有する機能



滞在・宿泊

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

FabCafeHidaが有する機能

木製品企画・開発・
プロトタイピング

FabCafeHidaの機能を活用した商品開発

①

②

③

④

国内外のクリエイターがFabCafeに滞在し、

①木材及びその使い方について学ぶ
②アイデアを出し合う（まとめる）
③木を選ぶ
④プロトタイピング

①～④を通して小径広葉樹の新たな可能性を創造する（生み出す）。

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

【家具・什器類】

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

【家具・什器類】

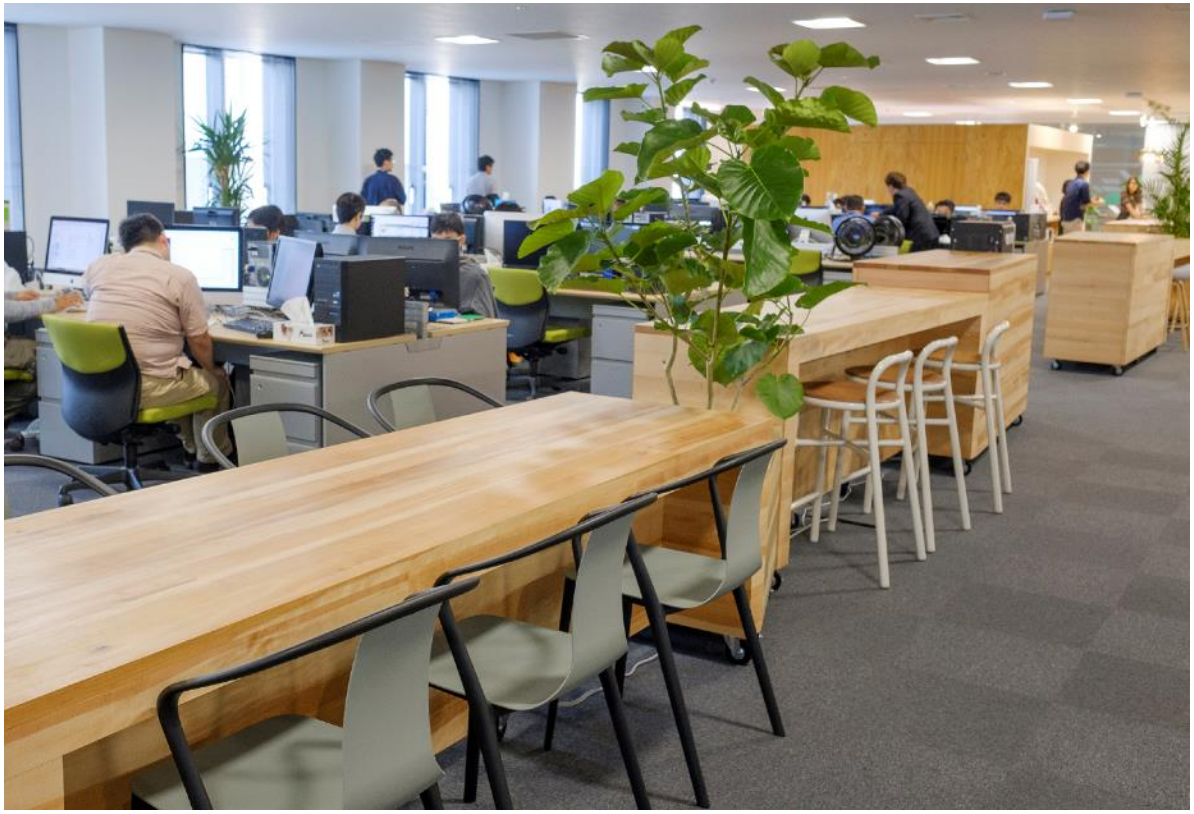
Modern Cat Tree “NEKO”

世界の「猫好き」に捧げる最高級のキャットツリー

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

小径木広葉樹の活用事例

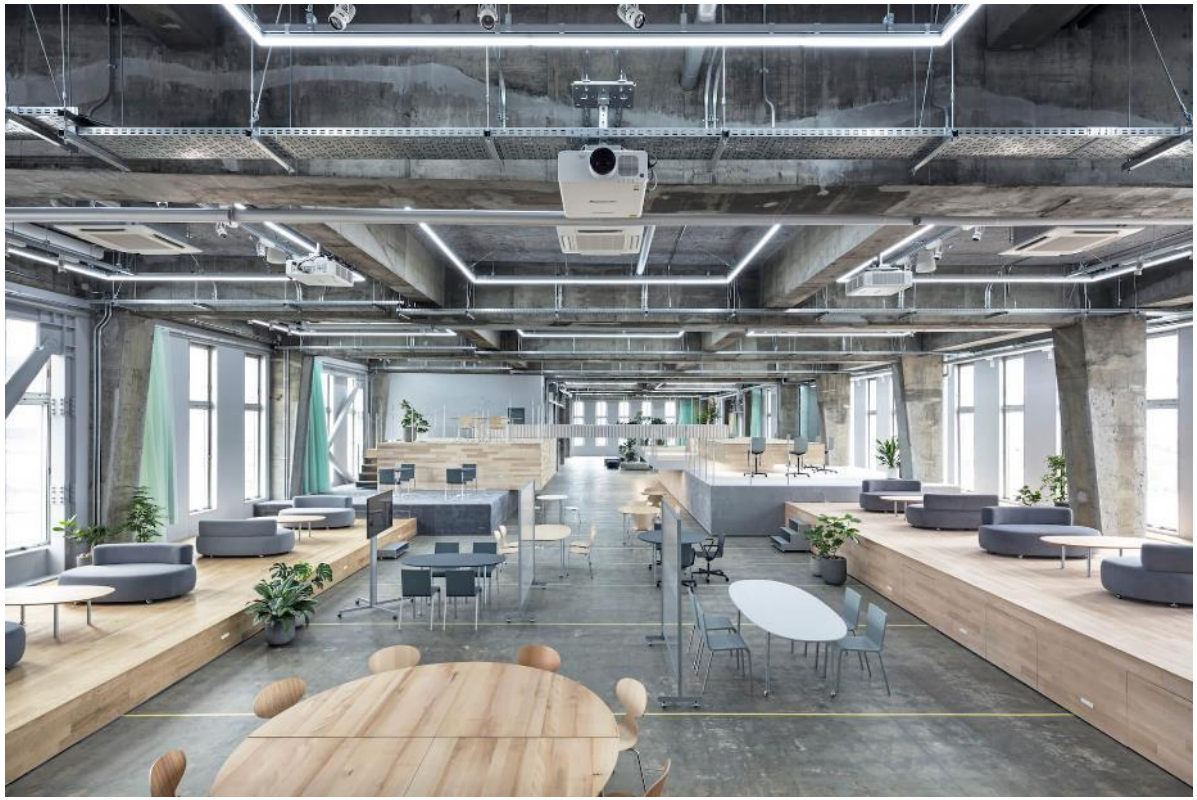
【オフィスリノベーション（内装）】



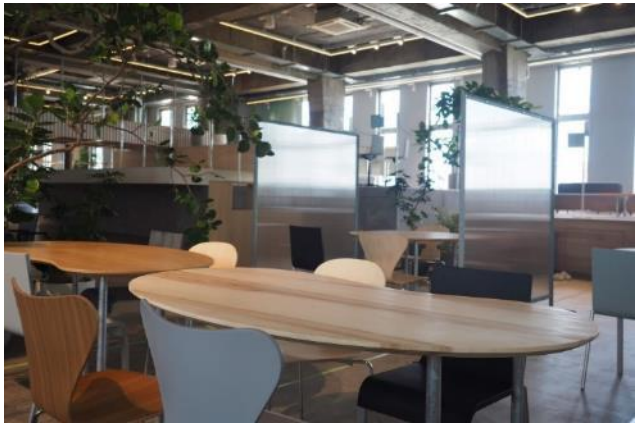
Neos Sapporo Developers Park
（2019 札幌市）

小径木広葉樹の活用事例

【オフィスリノベーション（内装）】



©Kenta Hasrgawa



鈴与株式会社　本社5階CODO

（2019 静岡市）

有識者・専門家の評価と新たな課題

- 市町村にしかできない斬新な取り組みで非常に面白い。
- これまでの林業の視点に捉われず、柔軟に外部の視点を取り入れている点が良い。
- 里山の広葉樹を薪などに活用するといったこれまでの広葉樹活用とは一線を画しており、将来の可能性を感じる。

そのような評価の一方で…

- **動いている（流通している）材が少量過ぎて、地域経済へのインパクトは非常に限られているのではないか。**
- **川下側の取り組みがメインで、肝心の林業として、山側にお金が還っているとは思えない。**

といった声が多いのも事実

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

④ 広葉樹の森を活かした飛騨市の地方創生（まちづくり）

－ 第2ステップ －
R2～

課題解決にむけたアクションプラン策定に向けて

小さなまちだからこそできる
川上～川下の連携

（左上）広葉樹のまちづくり円卓会議
（右上）広葉樹のまちづくりセミナー
（左下）広葉樹活用先進事例研究（視察）

課題解決に資するアクションプランの策定

課題解決にむけたアクションプラン策定に向けて

飛騨市

R元広葉樹活用現地検討会（川上～川下の情報・意識格差を共有）

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

課題解決にむけたアクションプラン策定に向けて

Ｒ２広葉樹造材研修・製材見学会（価値を上げる造材・製材とは）　　@流通拠点施設

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

具体的なアクションプラン（R2新規・抜粋）

飛騨市

飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムの設立

飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムは、取り組みの趣旨に賛同する市内及び飛騨地域の関係プレイヤー（素材生産者、製材事業者、木製品企画・開発、製造、販売等事業者、建築事業者等のステークホルダー）１６者と行政（市）により設立。

コンソーシアム会員がそれぞれの役割（努力目標）を明確にし、会員相互の連携・協力の下で地域内サプライチェーンの構築を目指す。また、令和２年度から４年度までの３ヵ年を当事業推進におけるパイロット期間と位置付け、市はその間に必要な支援を行う。

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

具体的なアクションプラン（R2新規・抜粋）

飛騨市

市内産小径広葉樹の流通拠点の設置

製材所隣接地に新たに設けた流通拠点

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

具体的なアクションプラン（R2新規・抜粋）

飛騨市

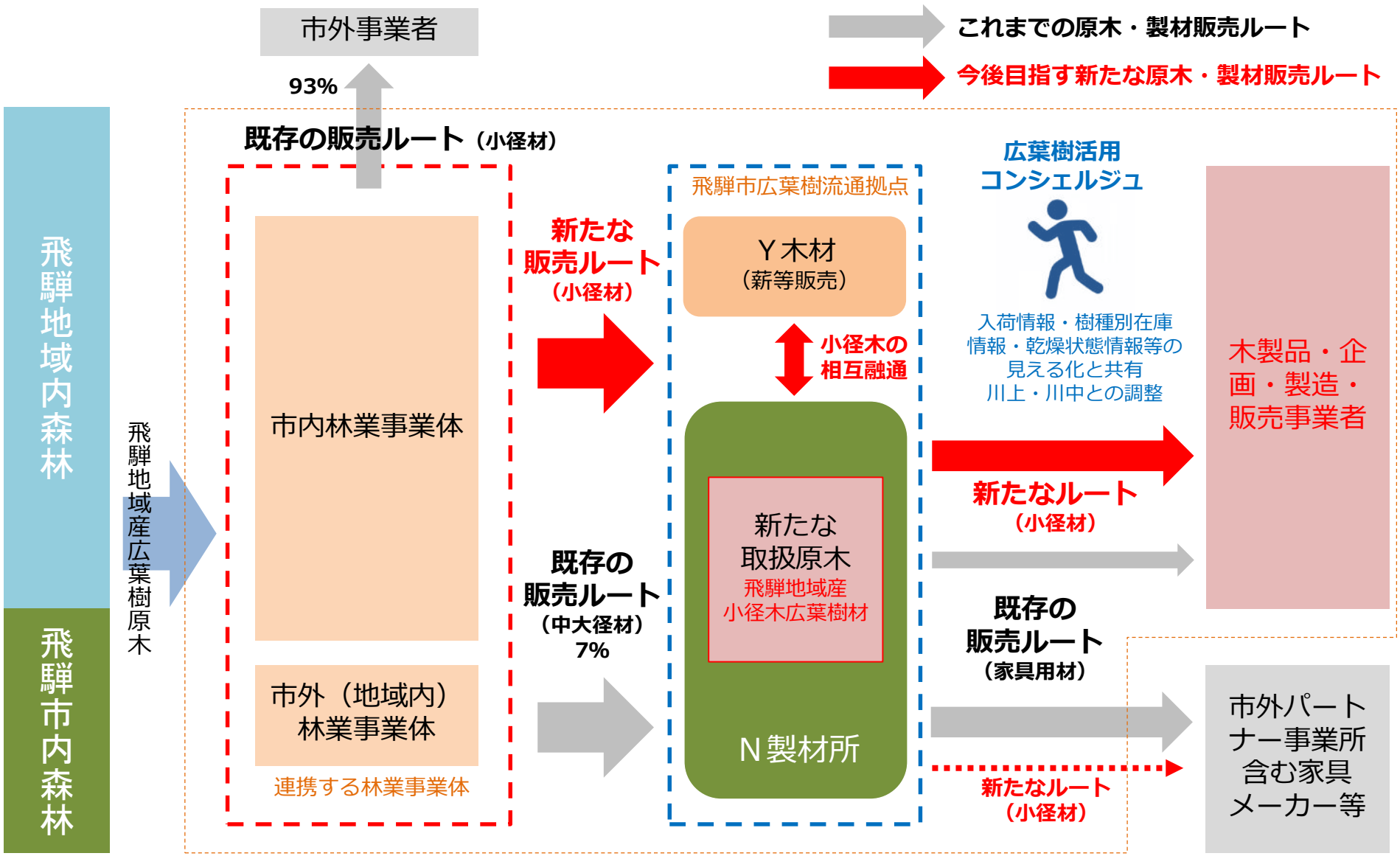
広葉樹活用コンシェルジュの配置

市内の関係者（素材生産者、製材事業者、木製品企画・開発・製造事業者、飛騨市等）との連携・協働により、飛騨市及び飛騨地域の広葉樹の新たなサプライチェーン構築に必要な各種企画、調整、営業、実需者とのマッチング等事業支援の役割を担う。

飛騨市広葉樹活用コンシェルジュ

及川（おいかわ）　幹（もとき）（R2.4.1着任）

飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムのイメージ図



広葉樹のまちづくり学校の開校

飛騨市をフィールドに広葉樹の施業、流通、製材、加工、販売など一連の流れを学ぶ学校。いま行われている挑戦をそれぞれ共有し、人とのつながり・相互理解を深めることで、飛騨市の広葉樹活用について具体的に考え実践できる人材の育成を目指す。

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

具体的なアクションプラン（R2新規・抜粋）

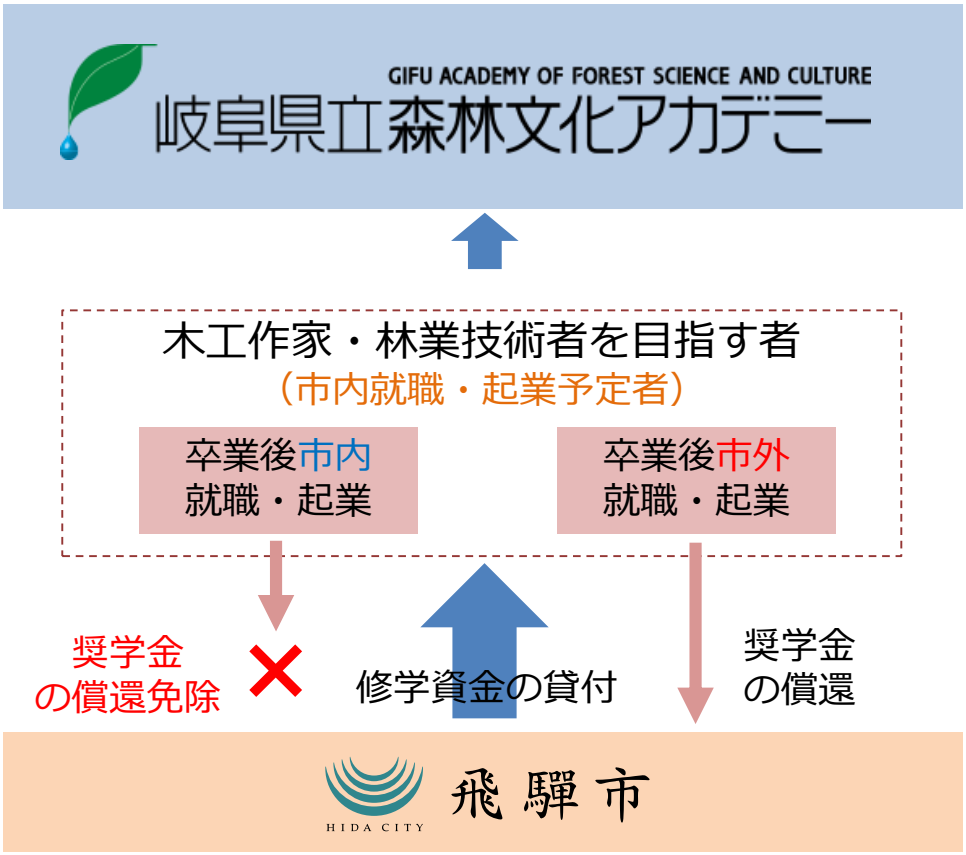
具体的なアクションプラン（R2新規・抜粋）

飛 驒 市

林業及び木工の担い手確保を目的とした修学資金貸付制度の創設

岐阜県立森林文化アカデミーと包括連携協定を締結し、アカデミーに入学する生徒に市独自の修学資金を貸付するとともに、卒業後、市内林業事業体や木工事業所等の関連企業に就職もしくは同業種において起業する方については修学資金の償還を全額免除することで、市内における林業技術者及び木製品の作り手（木工作家）の確保を目指す。

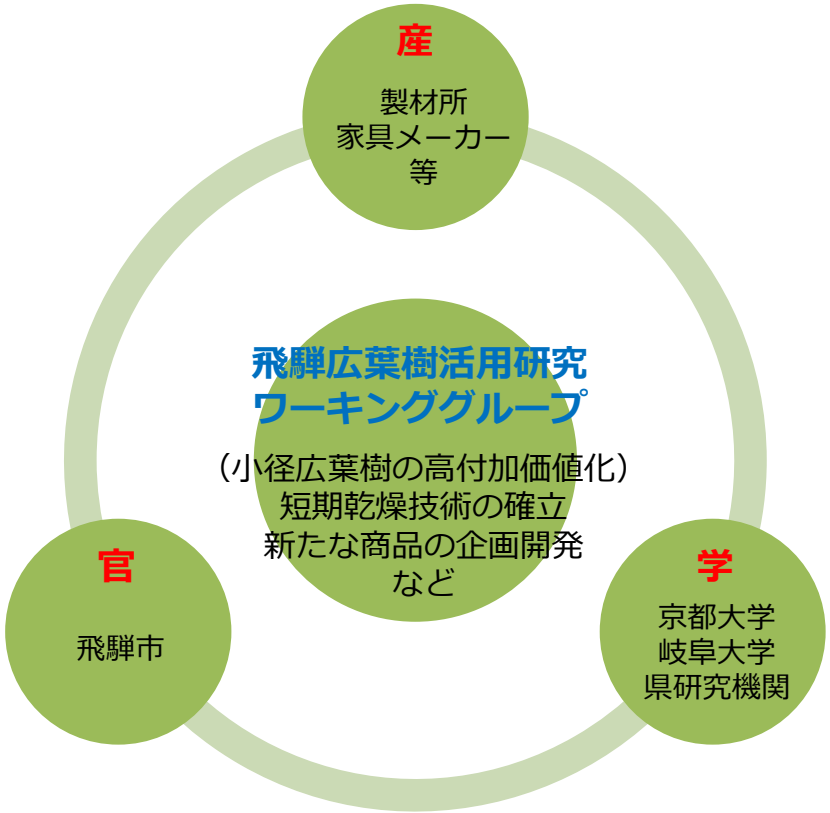
岐阜県立森林文化アカデミーとの連携協定締結式（2020.6.9）



具体的なアクションプラン（R2新規・抜粋）

小径材の曲がり部分・枝等を活用した新たな商品の開発

小径広葉樹１本からとれる用材の割合は１割程度と言われるため、残り９割を占めるチップにしかならない曲がり部分、枝、樹皮等を活用した新しい商品の開発を行うことで小径広葉樹１本の価値を上げ、山側への利益還元を目指す。



© 2021 Gifu Prefecture Hida City

具体的なアクションプラン（R2新規・抜粋）

飛騨市

飛騨市・広葉樹のまちづくりツアーの開催

飛騨市・広葉樹のまちづくりツアー2020
in　summer

募集

今年度は終了しました
【満員御礼】

（第1回目）　**（土）～2日（日）**

（第2回目）　**8月9日（土）～10日（日）**

飛騨市・広葉樹のまちづくりツアー2020
in　autumn

募集

今年度は終了しました
【満員御礼】

（第3回目）　**（土）～18日（日）**

（第4回目）　**9月29日（木）～30日（金）**

（第5回目）　**11月7日（土）～8日（日）**

※各回同行程（1泊2日）
※参加費無料（現地までの交通費、宿泊費、食費等は実費）
※各回定員8名

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

⑤ 広葉樹の森を活かした飛騨市の地方創生（まちづくり）

－ 第3ステップ －
R3～？

持続可能な仕組みづくりに向けた課題と新しい挑戦

持続可能な仕組みづくりに向けた課題

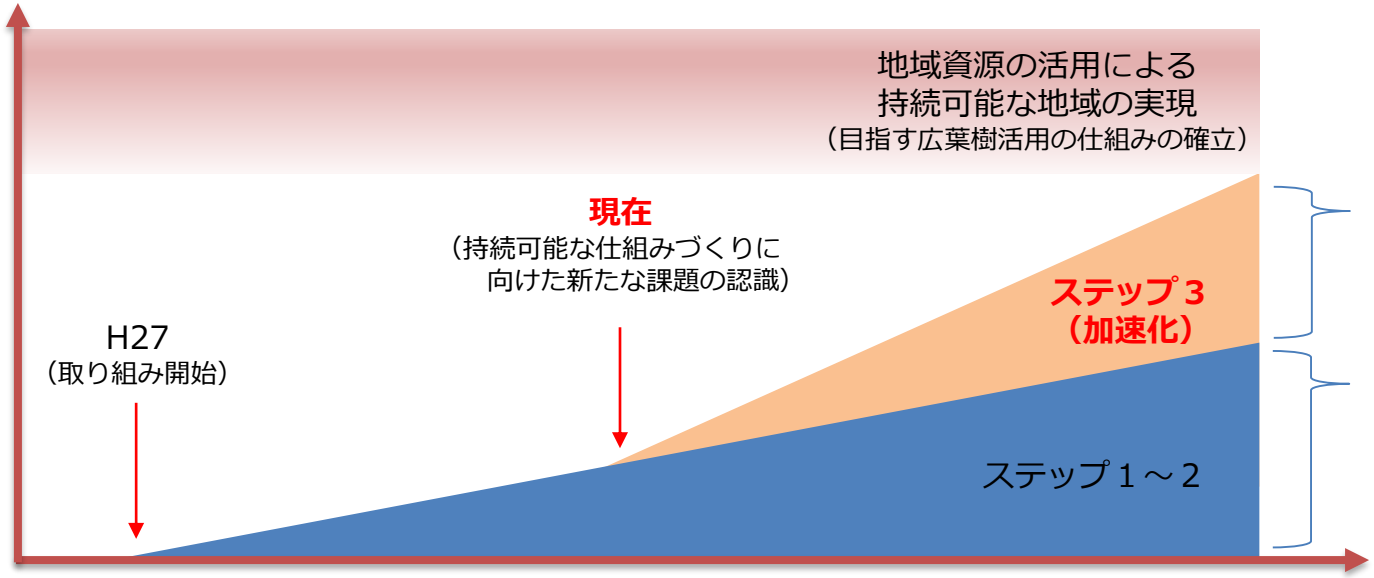
広葉樹林業では収益が見込めない

人工林の整備には国県による手厚い支援制度がある一方、広葉樹天然林の整備にはそうした制度がないため、皆伐した材を全てまとめてチップとして販売する以外に採算が見込めない。

小径材を活用するメリットが明確でない

一般的に小径材は、大径材と比較して乾燥の段階で暴れる（反ったり、変形したり、割れたりする）など、質の面で劣ると言われるため、優先して活用するメリットに乏しい。

飛騨市広葉樹のまちづくり実現の加速化に向けた取り組みイメージ



今後の取り組み

主に川上～川中に
主眼を置いた取り組み

これまでの取り組み

- 取り組み主体の設置
- 広葉樹活用のモデル構築
- 小径広葉樹の高付加価値化につながる商品開発（主に川下に主眼を置いた取り組み）

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

取り組みの加速化（課題の解決）に向けた取り組みの柱

飛騨市

■名　　称：飛騨市サスティナブル広葉樹活用プラットフォーム構築事業
■事業主体：飛騨市＋飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム
■実施年度：令和3年度～令和5年度
■事業概要：以下のとおり

※以下には現在構想中の取り組みも含みます

①　持続可能な広葉樹林業に関する調査及び研究（市を中心にR3年度より実施）

川上（素材生産）から川中（製材・流通）、川下（加工・販売）までの関係者が情報共有を密にし、これまでにない一気通貫型林業（あらかじめ調査により森側詳細ストック情報を把握し、その価値を評価するとともにそれらを使い手に伝え、立木価値や使い手の意向などを踏まえた森林整備を行う）の確立により計画性・効率性の高い新たなシステム構築を目指す。

②　小径広葉樹の短期製品化サイクルの実証（ｺﾝｿｰｼｱﾑを中心にR3年度より実施）

通常、約1年を要する伐採から製品（製材～天然乾燥～人工乾燥を経て加工可能な含水率にまで乾燥させた板材）に至るまでの期間を、小径広葉樹については人工乾燥のみで製品化を可能とする技術を開発することで、約3か月という短い期間で出荷できる小径広葉樹短期製品化サイクルを確立し、建築分野などでの新たな需要開拓を目指す。

③　持続可能な広葉樹活用ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑの設計（市を中心にR4年度より実施予定）

上記①及び②においてマテリアルとして木材の価値の最大化を図りながら、その他の未活用資源（曲がり材、端材、枝条、森林空間など）をエネルギーや教育、観光などの異分野で活用した場合の価値（地域内経済連関など）を数値化などにより見える化し、異分野も含めた地域全体で収支の均衡を目指す広葉樹活用プラットフォームの設計を行う。

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

具体的な取り組み（R3～R5）

飛騨市

①　持続可能な広葉樹林業に関する調査及び研究

⑴ 詳細資源量調査の実施

UAVやモバイルスキャナ等の最新デジタル技術の活用による資源量の把握

ノウハウを有した企業
＋
学術研究機関等

⑵ 立木資産価値の算出

資源量調査の結果をもとに立木毎の市場価値を評価し森林の立木価値として算出

試験研究機関

⑶ 施業方法の選択

資源量調査及び立木価値の評価結果を踏まえた森づくりと収益性の最適化を図る施業方法の選択

有識者
＋
試験研究機関

⑷ 森林整備の実施

決定した施業方法に合わせた森林整備を実施（育成木施業 or 択伐 or 更新伐）

市内林業事業体

⑸ システム（１～４）の分析・検証・課題の明確化・改善策の検討

１から４工程を関係者の連携の下で実際に実施し、計画性、効率性、収益性の観点から事業を評価・分析するとともに課題を明確にし、翌年度の事業に向けた改善策を検討する（PDCA）

分析・評価ワーキンググループ
（有識者・試験研究機関・企業・林業事業体・県・市などにより組織）

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

飛騨市

②　小径広葉樹の短期製品化サイクルの実証

広葉樹が製材品になるまでの工程及びスケジュール

（現状の工程及びスケジュール）　※中・大径材

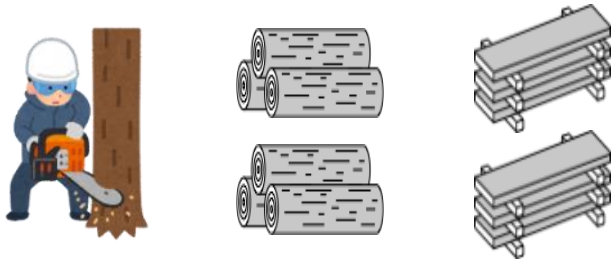
伐採 - 造材 - 製材 - 天然乾燥 - 人工乾燥 - 製品

← この間はおおよそ１年 →

（小径広葉樹短期製品化サイクル）

伐採 - 造材 - 製材 - 人工乾燥 - 製品

← **この間はおおよそ３か月** →



通常約１年を要する広葉樹の製品（製材品）化までの期間を、最も時間を費やす工程である天然乾燥を行わずとも製品の質を担保できる人工乾燥のノウハウを研究・実現させることで、小径材に限り**約３か月以内にまで短縮する。**

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

具体的な取り組み（R3～R5）

小径広葉樹短期製品化サイクル実現のメリット（小径材を建築内装に活用すると仮定）

伐採
R2.12
広葉樹の
伐採期は秋~冬

小径材製品化
R3.3
この時点で
活用可能

着工
R3.6

中・大径材製品化
R3.12
この時点で
はじめて在庫

中・大径材の場合は、R元の秋以前（1年以上前）に伐採された材しか活用できないことに対し、小径材の場合はR２の秋に伐採された材の活用が可能

広葉樹における「在庫」の考え方を根本的に変える大きな変化

選択肢＝狭い

中・大径材

製材所に
桟積された
板材

広葉樹（製品）の在庫

小径材

天然林にある立木（森）

選択肢＝広い

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

飛騨市

③　持続可能な広葉樹活用プラットフォームの設計

飛騨市の持続可能な広葉樹活用プラットフォーム

林業・木材活用分野

伐採（素材生産）⇒ 製材加工 ⇒ 木製品企画開発販売 ／ 建築利用 等

異分野での活用

エネルギー分野	観光分野	健康分野	教育分野
各家庭での薪利用や公共施設のボイラー燃料など、熱源として広葉樹の端材や枝条等これまで市外に流出していた資源を市内で活用	広大かつ豊富な森林資源をマテリアルとして利用するのみでなく、トレッキングやツリークライミングなど空間として観光側面から活用	クアオルト健康ウオーキングや森林セラピー、内装木質化等による市民の健康増進を目的として森林空間及び広葉樹材を活用	持続可能な飛騨市の実現に果たす森林・林業の役割や木材利用の意義を理解し、未来の飛騨市を担う人材を育成するため森林空間等を活用
地域内経済循環	外貨獲得	医療費の抑制	人材育成への投資

それぞれの価値（地域内経済効果など）の見える化

広葉樹活用の持続可能性を林業・木材活用分野のみで評価するのではなく、幅広い分野での活用によって生ずる様々な価値（経済効果など）を定量的に評価し、持続可能な仕組みとなるためのプラットフォームを設計する。

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

おわりに…

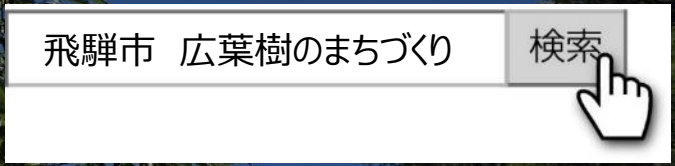
飛騨市のシンボルマークである「市章」は、古川町、河合町、宮川町、神岡町の４町をつなげる清らかな水がモチーフとなっていますが、その源は市面積の93%を占める豊かな森林です。豊かな森は清らかな水を育み、清らかな水は豊かな風景をつくり、水のある潤いのある風景は豊かな暮らしつくります。

飛騨市が全国に自慢できる和牛ブランドに成長した「飛騨牛」、食味分析コンクール国際大会で金賞を受賞し全国トップブランドに急成長中の「飛騨の米」、『清流めぐり利き鮎会』で準グランプリを2度も獲得している「飛騨清流みやがわ鮎」、様々な国際大会での受賞が続く「飛騨の酒」に共通しているのは、飛騨市の広葉樹天然林から湧き出るミネラル豊富な水です。

飛騨市は、この豊かな水、豊かな生活を将来を担う子どもたちに受け継ぐため、地域資源としての森林に再度光を当て、これまで向い合ってこなかった「広葉樹（雑木林）を活かす」ということにきちんと向き合うことを決めました。

今後も引き続き、広葉樹天然林に手を入れ、価値の高い森をつくりながら、その過程で伐採される広葉樹の新たな価値を生み出し、地域の経済循環の創出と市民の豊かで質の高い生活の実現を目指す「広葉樹のまちづくり」を通じ、日本における広葉樹林業のフロントランナーとなるべく不断の努力で挑戦を続けていきます。

© 2021 Gifu Prefecture Hida City

ご清聴ありがとうございました

広葉樹のまちづくりに関する情報を
Facebookで随時発信中